

韓国農林畜産食品部 2020. 10. 12 14:07:16 プレスリリース

ASF 防疫推進状況

<https://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QEB8JTJGYmJzJTJGbwFmcmEIMkY2OCUyRjMyNDg5MCUyRmFydGNsVmIldy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTI2cmdzRW5kZGVtdHIIMQIMjZiYnNPcGVuV3JkU2VxJTNEJTI2cmdzQmduZGVtdHIIMQIMjZwYXNzd29yZCUzRCUyNnNyY2hDb2x1bW4IMQIMjZyb3cIMQxMCUyNmIzVmIld01pbmUIMORmYWxzZSUyNnBhZ2UIMQxJTI2c3JjaFdyZCUzRCUyNg%3D%3D>

ASF 中央事故収拾本部は京畿・江原北部及び隣接する 14 市郡の養豚農場 358 戸（休業 19 戸、未飼養 15 戸、殺処分農家 3 戸を除く、京畿道 244 戸及び江原道 114 戸）に対し、ASF 精密検査（血液検査）を実施した結果、

○全件陰性と確認されたと明らかにした。

○また、現在までに陽性となった二つの農家との疫学関連が確認された養豚農場 50 戸に対して精密検査を実施したところ、全件陰性であった。

本部は ASF の拡散を防ぐために昨年 9 月から京畿・江原地域を 4 つの地域に区分し、豚・糞尿・車両の圏域間移動統制および屠殺場指定を実施してきたため、疫学関連農家数が少ないと説明した。京畿・江原地域の養豚農場 1288 戸に対して電話予察を実施（応答 1214 戸、応答率 94.3%*）し、結果、ASF 疑いなどの特異事項は発見されなかった。

*3 日連続応答のない場合は直接農場を訪問

本部は 10 月 11 日、消毒装備 912 台を動員して全国養豚農場 6066 戸に対する消毒を実施し、

○華川の ASF 発生農場（15 例目）の指定屠殺場 2 ヶ所に対して屠殺中断・出入り統制を命じ、施設内外・周辺道路の集中消毒を実施している。

本部は 10 月 10 日野生イノシシ防疫帯（陽性個体発見地点から半径 10km）の養豚農場 175 戸に緊急現場点検班（18 組）を派遣し、消毒・防疫実態を点検した結果、生石灰散布が不十分な農家が多数あることを確認した。

○これに伴い、10 月 11 日、京畿・江原北部及び隣接する 14 市郡の養豚農場 358 戸に対して緊急生石灰散布を実施した。

本部は 10 月 11 日、華川の 15 例目の農家（10 月 9 日確定）と近隣（10km 以内）の農家 2 戸に対する殺処分*を完了した。

* 殺処分・埋却対象：3 戸、計 2244 頭（721 頭、1020 頭、503 頭）

○16 例目の農家（15 例目の農家から 2.1km）と疫学関連があると確認された京畿道抱川（ポチョン）の二つの農家に対する予防的殺処分も実施中である。

また、中央捜査本は 10 月 11 日、國務總理主催の ASF 状況点検会議で初動対応のための防疫措置状況と今後の計画に対して議論した。

○本部は ASF の追加発生を防止するため、発生地点の農家、近隣地域の農家、疫学関連農家・畜産施設などを中心に精密検査および集中消毒を実施すると明らかにした。

キム・ヒョンス本部長は 10 月 11 日開催された ASF 状況報告会で、

○“発生農場と疫学関連を有する農家・畜産施設などを迅速に把握して集中消毒すること”を指示

機械翻訳等に基づく仮訳

し、

○養豚農家を対象に“ASF の追加発生がないように農場に出入りする車両と人々に対して徹底した消毒・管理をしてほしい”と呼び掛けた。